

氏名	清 水 一 紀
学位(専攻分野)	博 士(医 学)
学位授与番号	博 乙 第 2475 号
学位授与の日付	平成 4 年 9 月 30 日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	難治性喘息における好中球の役割に関する研究 第1編 好中球からのLeukotrienes産生能及びsuperoxide産生能 に関する検討 第2編 好中球からの免疫学的刺激によるLeukotrienes産生能に に関する検討
論文審査委員	教授 太田 善介 教授 辻 孝夫 教授 中山 睿一

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

難治性喘息における好中球の役割を明らかにする目的で、末梢血好中球からのCal刺激によるLTs産生能をHPLCにて測定し、同時にチトクロームC還元法にてsuperoxide産生能を測定した。その結果、健康人に比し喘息群でLTC₄, B₄の産生能が亢進し (P<0.01), 特に難治群は非難治群に比しLTC₄の産生能が著明に亢進していた (P<0.05)。またsuperoxide産生能は、prednisolone (PSL) 10mg/日未満群ではPSL10mg以上群に比し高値を示した (P<0.01)。かかる喘息群のsuperoxideとLTs産生能の間には、LTC₄とLTB₄及び、LTB₄とsuperoxideの間に相関を認めた。次に免疫学的刺激によるLTs産生能を検討したところ、抗IgG抗体、ZAS, Candida刺激でLTs産生が認められた。さらにCandida刺激では難治群のLTC₄は非難治群に比し亢進していた。(P<0.05)。以上、難治性喘息の病態には活性化された好中球が重要な役割を持ち、種々の免疫学的刺激で産生されるLTs, superoxideなどの化学伝達物質が喘息の難治化要因として重要であると思われる。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は難治性喘息における好中球の役割を明らかにする目的で、末梢血好中球からの

Cal刺激によるLTs産生能をHPLCにて測定したものである。その結果難治性喘息の病態には活性化された好中球が重要な役割を持ち、種々の免疫的刺激で産生されるLTs, superoxideなどの化学伝達物質が喘息の難治化要因として重要であることが明らかとなった。これは価値ある新知見であり、よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。